

福祉タイムズ

2016

8

No. 777

編集・発行 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

特集 (2~4面)

寄り添い型の求職者相談でミスマッチを防ぐ



▶今月の表紙 上下なく、皆で汗をかく。一緒に歩いていく

障害のある人もない人も、各々が自らのできる範囲で役割を果たし、互いに補い合いながら、同一基準の賃金を受け取ることができる労働の場づくりに取り組む「寿クリーンセンター」。それぞれに色んな人生、色んな経験を経て、いま、一緒に働く仲間たち。合わさった力は何倍も大きく、強くなる。【詳しくは12面へ】

〈撮影・菊地信夫〉



寄り添い型の求職者相談でミスマッチを防ぐ ～福祉・介護人材の定着を図るために～

厚生労働省が実態調査等をもとに算出した、2025年に向けた介護労働者の需給推計によると、このままでは37.7万人の労働者が不足すると言われています。このような状況において、福祉人材の確保とあわせて福祉サービスの質、つまり職員の専門性の向上も重要な課題となっています。

福祉・介護・保育の分野に従事する職員の専門性の向上を図るためにも、職員の「離職防止」＝「定着」に向けた取り組みが求められる中、かながわ福祉人材センター（以下、人材センター）における、就職支援段階からの取り組みを紹介します。

福祉・介護の職場に 勤めてみたものの……

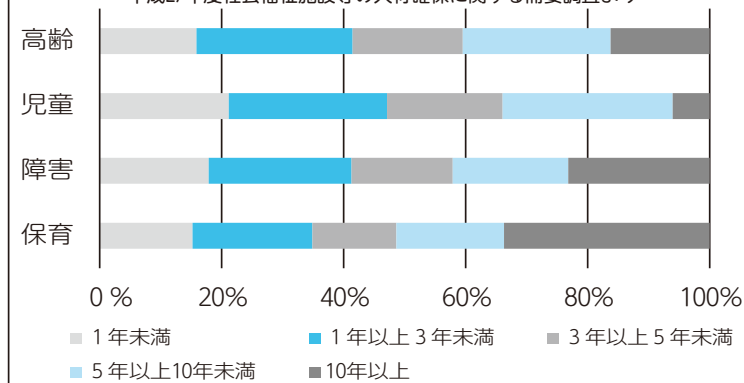
厚生労働省の「労働市場レポート 第65号（平成28年4月）」によれば、平成22年から27年までの間に医療・福祉従事者として150万人が雇用されており、前回調査（平成21年）の127万人を大きく超えていることが分かりました。また医療・福祉分野への入職率を全産業平均と比較すると、福祉分野（18・7％）の方が全産業平均（14・2％）より高くなっています。

一方、離職率は福祉分野（16・3％）、全産業（14・4％）と大きな差はないものの、こちらにも上回っています。福祉分野の介護職等の直接援助業務に当たる職員の勤続年数の構成は、人材センターが実施した「平成27年度社会福祉施設等の人材確保に関する需要調査」（以下「需要調査」）によると、全分野合計で「1年以上3年未満」が23・8％、「1年未満」16・5％と合わせると、約40％が勤続年数3年未満の職員となります。

「3年以上5年未満」は16・9％、「5年以上」約43％と、勤務年数3年から5年間の職員が、他の区分より少なくなっている状況があります。このことから3年が経つ前に職場を離れてしまう人が多いことが分かります。

勤続年数ごとの人数構成（正規職員）

平成27年度社会福祉施設等の人材確保に関する需要調査より



まず。「需要調査」で離職理由を尋ねたところ、「職場の人間関係に問題があったため」が最も多く、「他業種への転職」が第2位に続きます。「給与等処遇面の不満」は14項目中6位で、離職の引き金になっているとは言えません。

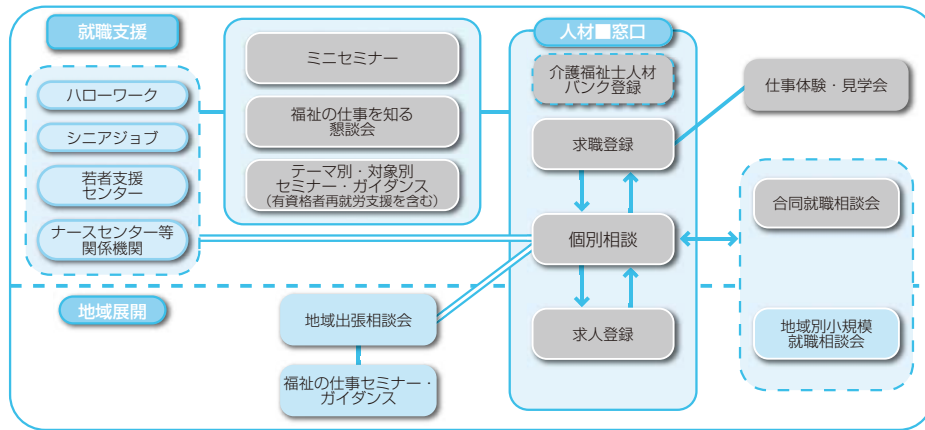
一方、現に福祉・介護の仕事に従事している人への調査では、満足できない一番の項目が「賃金の安さ」（1）であり、「賃金が安い」＝「仕事を辞める」という単純な因果関係にあるのではないことが分かります。

「定着」する人の割合を増やすことも大きな課題

人材の確保と同時に、「定着」も重要な課題となっています。「採用」にあたっては、各法人・事業所において総務担当者だけでなく、現場職員にとっても、新任職員の育成、職員間の関係づくり、強いてはサービスの質の確保に向けても、多大なエネルギーを注ぐことになるからです。とりわけ早期離職は、現場職員の不安全感に伴い、職場全体への影響が懸念されます。

では、どうしたら早期離職を防げるのか、対応を考える必要があります。多くの職場が「早期離職予防・定着促進のために労働時間の希望を聞いている」「職場内のコミュニケーションの円滑化を図っている」などさまざまな取り組みをしている状況も見えています（ii）が、就活プロセスにおける支援では、ミスマッチを防ぐことが早期離職を防ぐ鍵になってきます。

かながわ福祉人材センター事業展開図



と求人事業所との「出会い」の創出に取り組んでいます。

人材センターではキャリア支援専門員5名が中心となり、その役割を担っています。

人材センターの就労支援の特徴とも言えるのは、求職相談者が動機づけから採用面接に至るまでの、どの「段階」にいたるかに配慮し対応していることです。

その段階は、

①福祉の仕事を知る段階

②自分にできる仕事内容かを判断する段階

③どうすれば働けるかを知る段階

④就業形態のマッチング段階

⑤求職活動

に区別しています。

キャリア支援専門員は面談中、求職相談者がいる段階を見極めながら求職相談者に寄り添い、就労支援を進めていきます。

第4、第5段階にある求職相談者にキャリア支援専門員が、より具体的にその人の目指す就労の方向性を見極めていくために用意している選択肢は「職種」「勤務形態」そして「通勤距離」です。採用応募をする前に「求職者自身が、自分が例えば高齢者、子どもなど、どのような利用者に関わっているか。そして、その人たちに接している場面はどういうところなのか。働いている自分がいる時間帯は昼間なのか夜なのかなど、利用者像や職場の空間をイメージしてもらうこと」で、求職相談者のキャリア支援を具体化しています。

さらに、求職者自身が施設や事業所に行き、その職場の「雰囲気」を五感で感じ、具体的な業務内容を知り、ともに働くであろう職員の姿を見て就職先を決めることも重要です。求職相談とあわせて「福祉のし

福祉のしごと 相談

(月曜日～土曜日午前9時～12時・午後1時～午後5時まで)

キャリア支援専門員（福祉のしごと相談員）等が、個々の状況に応じ、様々なご相談を受けて就職活動をサポートします。

賃金や休暇は？

福祉施設ってどんなところ？

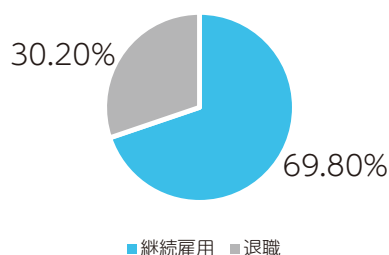
ごと体験（グループ見学を含む）」も重要なツールとして活用しています。

人材センターが取り組む求職相談が福祉・介護人材の定着に結びついているかについては、今年6月、平成25年度から27年度までに人材センターが紹介状を発行し、その後、法人・事業所から「採用」との連絡を受けて求人票の取り下げを行った方の定着状況の調査を行いました。

調査対象276法人のうち222法人より回答を得ました（回答率80・4％…7月5日現在）。回答から、人材センターが紹介した方263名が現在も継続就労している状況などが分かりました。

回答いただいた法人からは「未経験で入職したにも関わらず、人柄を

人材センター紹介者の定着状況
平成25年～27年採用者
(任期満了者除く)



実際に活躍している方、お二人に話を伺わせていただきました。

人材センターの相談を利用し、現在は平塚市にある軽費老人ホーム「つちやホーム」に勤める北村恵美子さんは、「これまで児童関係や障害関係の仕事をしてきたのですが、膝を痛めてしまい、これからのような仕事ができるのか、心配な時期に相

験で入職したにも関わらず、人柄をかわれ、2年間でユニットサブリダーに昇格しました」「利用者・家族の信頼を積み重ね、職員間でも良好なコミュニケーションを築き、介護技術面でも着実な成長が見られたので正職員に昇格した」「就労継続支援事業所で、工賃作業の確認など仕事を確実に進めてくれる」「組織にもすぐ馴染み、よく働いてもらっている。意欲もあり、将来に期待が持てる」など、福祉・介護の職場で活躍している様子をお伝えいただけました。

談を利用しました。話を進める中で、ちやうど地元で就職相談会があるから参加してみても？と勧められ足を運んでみました。

いくつかの相談ブースを回るうちに、施設ごとの働き方の違いが見えてきたのがよかったです。高齢の施設は初めてということもあり、キャリア支援専門員の計らいで就職前に1日、職場体験をさせていただきました。勤め始めてまだ3カ月です。先輩職員も利用者さんも長く施設にいる方が多いので、いろいろ教えてもらいながら働いています」と話してくださいました。



「ここが、この施設の一番好きな場所」と案内してくださった北村さん

また、横浜市にある障害者支援施設「白根学園光の丘」で支援員として働く池田優さんは、営業職から転職する際に人材センターの相談を利用しました。

当初、池田さんは障害者ではなく、障害児支援を、そして夜勤のない職場を考えていたようですが、相談を進める中で、さまざまな情報を得て現実的に就職先を検討し、今の職場に決めたと言います。

勤め始めて1年以上が経った今、「以前の仕事は数字と時間に追われて辛かったけれど、現在は利用者さんとのコミュニケーションを楽しんでいることのできる仕事に就けてうれしい」と語ってくださいました。池田さんは現在、社会福祉士の資格取得も視野に、専門職としての高みを目指しています。



資格取得も考え、専門職としての成長を目指す池田さん

より丁寧なマッチングが 定着には不可欠

厚生労働省の労働市場分析レポート(iii)では、福祉・介護に従事し続ける年数は、全産業平均従事年数と比べて比較的高い傾向にあります。

た。職種や就労形態などを多角的に検討し、この仕事の魅力を感じることでできた人は長く仕事をし続けている可能性が高いと言えるでしょう。前述の人材センターの調査に寄せられた意見に「就職先の職務内容について、よく理解した上での採用が職員の定着のために大事なことになる」と考える。今回、当施設の概要等について具体的に紹介させていただく機会があり、(求職者が)現在も意欲的に仕事をしていただいている」とありました。

求職相談を通じたマッチングは、求人ニーズに対する起爆剤的な採用戦略とは言いにくい面もありますが、新入職員2割近くが職場を去っている現状改善に向けた戦略の一つとして、一層丁寧に取り組む必要があると考えます。

今後多くの人に福祉・介護の仕事に関心を持っていただける場の提供とともに、就職を検討している人には丁寧な支援を通じ、福祉・介護の仕事の魅力をさらに発信していきます。

(かながわ福祉人材センター)

参考文献

- (i)・(ii)介護労働安定センター
平成26年度「介護労働実態調査」(平成27年8月)
- (iii)厚生労働省 労働市場分析
レポート第21号(平成25年10月)

かながわ福祉人材センターHP

かながわ福祉人材センターのHPでは、求人・求職者の皆さまに役立つ情報の発信をしています。

介護福祉士 人材バンク

介護福祉士有資格者の届出(登録)により再就職のお手伝いを行います。登録はHPで可能です。



<http://www.kfjc.jp>

かながわ福祉人材センター

検索





麻溝地区

高齢者かわら版への寄稿から

相模原市南区の麻溝地区民生委員児童委員協議会（以下「民児協」）では、麻溝地区高齢者支援センターが年4回発行する『麻溝地区高齢者かわら版』に、自治会、地区社協、老人クラブとともに情報を掲載しています。民児協では民生委員の存在を身近に感じてもらいたい、次のようなコラム風の読みものでPRしています。

その1「セーノ」の力（平成27年3月発行）

8月31日夕方7時のニュースで広島県災害現場の映像の中で、土砂で動けなくなった車を7人から8人の男性が「セーノ」の掛け声のもと、押し出そうとしている場面を見てハッと気がついた。

「セーノ」という掛け声は、北は北海道から南は九州まで気持ちを一つにする最高の共通語なんだと。

いつの災害現場でも、復興の手助けをしようと、若者を中心に大勢のボランティアが駆けつけています。一人の力は小さくとも気持ちを一つにすれば大きな成果となる。まさに「セーノ」の力だ。

今、暮らしやすいまちづくりに取り組んでいます、地区の住民1,800人が「セーノ」の掛け声のもと、成し遂げられるものはないか思案中です。

高橋 功（民生委員児童委員）

相模原市南区
麻溝地区民生委員児童委員協議会



その2「入口ひとつに出口多数」詐欺に注意の呼びかけ

（平成28年3月発行）

定年後の高齢者の生活。退職金プラス年金で悠々自適と夢を描いていた。しかし、退職で緊張の糸が切れ、体調を崩し病気を発症。通院の合間に、子どもの結婚式、孫の入進学、家屋の補修など、出費多数に退職金は目減りするばかり…。年金支給日を追いかける始末に思わず不安が募る。

なんとか手持ちのお金を増やさねばと考えているところに忍び寄る詐欺の魔の手。未公開株の勧誘の電話、海外への投資話などに心がぐらり。

簡単に稼げるお金などあり得ないのです。

手元の筆筒のトラの子が吠えているよ。「この家を出たくない」って！

〈民生委員児童委員活動のPR〉

民生委員制度創設100周年となる来年度は、市民桜まつりでパレードの参加を検討中です。総勢900名、圧巻なパレードとなることでしょう。

（相模原市民生委員児童委員協議会）



カラーで読みやすいと好評の『高齢者かわら版』



毎月1回10日に公会堂で開催する「サロン鳩川」の様子



横須賀にある「大津地区ボランティアセンター」との交流

高齢者や身体の不自由な方の為の【緊急通報サービス】を当社では格安で提供しております。関心のある方や希望される方はお気軽にお問い合わせ下さい。

京浜警備保障株式会社

代表取締役社長 岡本 誠 一 郎

本 社 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表 FAX(045)441-1527

一般社団法人

神奈川県福祉研究会

福祉施設経営相談室 税務・会計の専門相談員

理 事 伊藤 正孝(☎045-412-2110)

同 辻村 祥造(☎045-311-5162)

同 西迫 一郎(☎046-221-1328)

同 林 雄一郎(☎0466-26-3351)

代表理事 八木 時雄(☎042-773-9266)

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作



KKI きかんし印刷

株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒236-0004 横浜市金沢区福満 2-1-12

営業部 TEL045(785)1700代 FAX045(784)8902

制作部 TEL045(785)1788 FAX045(780)1588

http://www.kki.co.jp/

誕生した大切な命だから 一人ひとり充実した一生を！ 全国手をつなぐ育成会連合会全国大会を神奈川で開催

全国手をつなぐ育成会連合会は、知的障害児者の親や支援者を主な会員とする全国組織で、70年近い歴史があります。

毎年、各地持ち回りで全国大会を開催していますが、今年は3年前に組織替えをしてから3回目(通算65回)の大会を大会が担当。

「誕生した大切な命だから 一人ひとり充実した一生を！」をメインテーマに、7月2日・3日に神奈川県民ホールをメイン会場とし、全国各地から2千名以上の参

加者を得て、盛況に開催することができました。

1日目【分科会】

日本も国連の障害者権利条約を批准し、関連する国内法の整備が進められています。家族・支援者による分科会「育成会大会」は、それに伴ってクロージングアップされてきた意思決定支援と合理的配慮を、大会全体に通底する理念に据えながら、充実した一生の実現を目指して開催しました。

「本人大会」は、知的障害当事者

育成会大会

- ◆第1分科会：大切な命を授かって生まれる～家族支援と本人支援のバランスを考える
- ◆第2分科会：インクルーシブな社会で育つ～権利条約から読みとく教育・社会参加
- ◆第3分科会：自分らしさを発揮して生きる～可能性を引き出す支援の実践
- ◆第4分科会：成人後の人生を自立的に暮らす～制度を利用する際の意思決定支援のあり方

本人大会

- ◆Aコース：ぶっちゃけトーク～自分のことは自分で決めたい
- ◆Bコース：はたらくトーク～誰でも自由に仕事を選んで働ける社会になるには
- ◆Cコース：生き方トーク～生活についてありのままに話しましょう
- ◆Dコース：手作りワークショップ～一緒にゲームと手作りを楽しむワークショップ！
- ◆Eコース：バスツアー～異国情緒漂う横浜！未来に目を向ける横浜！お楽しみに～

たちが中心となり、企画、構成から当日の運営や司会進行に至るまで、支援者のアドバイスを得ながら、張り切って見事にやり遂げました。

また、韓国から両国親の会交流事業として親子7名が来日、当事者代表の意見発表もありました。

分科会終了後の「ライブセッション2016@かながわ」では、各会場から参加者全員が集合し、福祉的活動としてのアートや音楽を職業にしている人たちによるステージを楽しみました。

●人形劇団「ふもつふつ二代目」(スタジオオクターカのメンバー)「テキト」版爆笑白雪姫！

●バンド「サルサガムテープ」ライブ。スペシャルゲストにミッキー吉野氏(ゴダイゴ)「電飾ありスモークありのロックコンサート！」

2日目【全体会】

式典の後には、知的障害児者のスポーツ推進団体「スペシャルオリンピックス日本」の理事長で元マラソン選手の有森裕子さんによる記念講演があり、スポーツには障害の有無は関係なく、無限の可能性があるこ

とを力説されました。

私たちは「障害当事者の生活を、レッテルで選別しない、年齢でブツ切りにしない、制度で縦割りにしない、一人ひとりがその時々によさわしい支援を得て充実した一生を送ることが出来る」それが当り前になることを願って今大会を開催しました。

参加者からは「子どもの人生の今とこれからについて、全体を通して俯瞰することが出来るテーマ設定が新鮮だった。それが自分自身の生き方について考える機会にもなった」との感想も聞かれ、共感を得られたのではないかと思います。

障害という概念さえも不要な、究極の「当たり前」を目指して、これからは活動を続けていきたいと考えています。

(神奈川県手をつなぐ育成会)



実施要綱を希望される場合は、下記事務局までお問合せください
TEL 045-323-1106 FAX 045-324-0426
Mail ijkanagawa_k@yahoo.co.jp

えびな成年後見・総合相談センター開所

海老名市では、認知症や障害等により判断能力が十分でない方を法的にサポートする成年後見制度の利用や、介護・生活全般の相談に応じるため、7月1日に「えびな成年後見・総合相談センター」（以下、センター）を開設しました。

センターは、海老名市社協が受託し、弁護士とのセンター長や相談員による権利擁護の視点に立った総合的な相談事業、成年後見制度の利用促進や市民後見人の養成・活動支援等の事業に取り組みます。海老名市では、平成27年度から

7月26日未明、相模原市緑区の障害者支援施設「県立津久井やまゆり園」で発生した事件により、入所者19名の方々の尊い命が奪われましたことに、心から哀悼の意を表します。

また、負傷された26名の方々はじめ、入所者の方々、ご家族・関係者の皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早く日常生活を取り戻されますことをお祈り申し上げます。

本会では、今回の非常に痛ましい事件を重く受け止め、一人ひとりが尊重し合い、お互いの暮らしを大切にしながら、ともに生きる社会づくりに向けて、関係者と力を合わせ取り組んでまいります。

平成28年7月26日

(福)神奈川県社会福祉協議会
会長 篠原正治

今月の「福祉のうごき」は休載します。

検討会を設け、従来より専門職や相談支援機関、行政等と地域住民福祉活動との協働による支援体制づくりを進めてきた海老名市社協の「権利擁護えびなネットワーク」とともに、センターの構想や今後の連携体制について協議を重ねてきました。

開所式では、内野優市長が「認知症や障害があっても、その人らしく生活できる地域を目指したい」とあいさつ。続いて、センター長で弁護士の角田勝政さんから「成年後見制度の相談だけでなく、生活上の課題も地域の関係機関と連



えびな成年後見・総合相談センター

〒243-0434 海老名市上郷474-1（海老名市立総合福祉会館内） ☎046-200-9833
月～金（年末年始・祝日除く）午前9時～午後5時
※第1土曜日（午前9時～12時）は海老名市役所で実施

携をしながら解決していきたい」という今後の展開に向けての抱負が語られました。

（権利擁護推進担当）

— 社会福祉施設の設計監理 —

株式会社 安江設計研究所

東京都港区高輪 2-19-17-808

Tel 03 (3449) 1771(代) / Fax 03 (3449) 1772

E-Mail yasue@yasue-sekkei.co.jp

URL <http://www.yasue-sekkei.co.jp/>

新築・増築・改修の他、耐震診断・建物定期報告・
アスベスト調査等お気軽にご相談ください

● 印刷の事ならおまかせください ●

お気軽に相談ください！

株式会社 **あんざい**

横浜市港南区下永谷 3-24-29
TEL 045-822-8497
FAX 045-824-1303
mail: anzai@p-anzai.jp

私のおすすめ

◎このコーナーでは、子育てや障害、認知症・介護当事者の目線から、普段の暮らしに役立つ「おすすめ」なものを紹介します。

夏休みの宿題に 親子でかんたん工作！

海やプール、お祭りに花火と楽しい夏休み。しかし、終わりに近づくにつれて心配になるのが、子どもたちの宿題が進んでいるかどうかです。もし工作の宿題で何を作ったらよいかお困りの際は、今回ご紹介するスノードームや万華鏡を作ってみてはいかがでしょうか。見た目がきれいで涼しげなので、夏のインテリアとして作ってもよいですね！

❖スノードームと万華鏡づくりに挑戦！

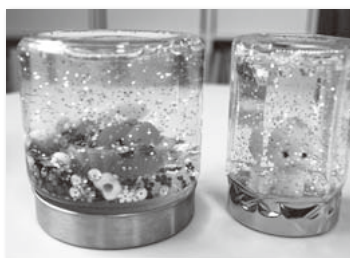
キラキラと輝く小さな世界に心がときめくスノードームと万華鏡。雑貨店や土産店でよく見かけるものですが、意外と簡単に親子で楽しみながら作れます。その方法をご紹介します。

■スノードームの作り方

【材料】・ガラスの空きびん ・スポンジ ・フィギュアやオーナメントなどの小物 ・ラメパウダー、ビーズなど ・水 ・洗濯のり

【作り方】

- ①スポンジをびんの口の大きさに合わせて切る
- ②びんの蓋の裏側にスポンジを接着剤でつける
- ③スポンジの上に小物を接着剤でつける
- ④びんの約5分目まで水を入れ、その後8～9分目まで洗濯のりを入れる（水：洗濯のり＝6：4）
- ⑤ラメパウダー、ビーズなどを入れ、気泡ができないようにゆっくりと混ぜる
- ⑥びんの蓋を閉めて、できあがり
- ⑦さあ、びんをひっくり返してみよう！



いちごタルトとキューピーさんのスノードーム

■万華鏡の作り方

【材料】・トイレットペーパーの芯（高さ114mm、直径38mm） ・ビーズ ・塩化ビニール板ミラー、また



今月は

⇒ **NPO法人 ままとんきっず**

がお伝えします！

今年で子育て支援活動24年目。お母さんたちが主体となって、親子が集うサロン、グループ保育、各種講座、産後サポート、子育て支援センターなどを運営。情報誌・単行本の発行物は40冊を超え、一部は海外でも翻訳出版。2015年末、高齢者の共同生活型住宅に隣接する新事務所に移転。子育て世代とシニア世代が交流できるコミュニティづくりで地域の活性化を目指し、活動の場を広げている。

〈連絡先〉〒214-0011 川崎市多摩区布田24-26
（JR南武線中野島駅から徒歩7分）

☎044-945-8662 FAX 044-944-3009

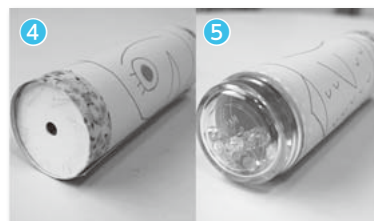
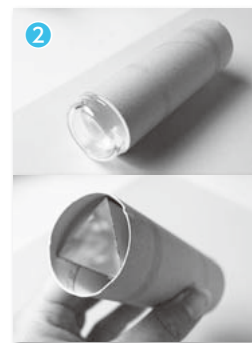
URL <http://www.mamaton.jp.org/>



はポリカーボネート板ミラー（長さ100mm×幅32mmに3枚切り出す） ・丸い透明のケース（直径約35mm） ・のぞき穴用の紙 ・まわりに巻く用の紙

【作り方】

- ①塩化ビニール板ミラー、またはポリカーボネート板ミラーの3枚が三角の筒になるように、ミラー部分を筒の内側にして組み立て、テープでとめる
- ②トイレットペーパーの芯に丸い透明のケースをはめ、中に三角の筒を入れる
- ③丸い透明のケースの中にビーズを入れる
- ④のぞき穴用の紙をトイレットペーパーの芯の丸の部分に合わせて切り、中央に穴を開けてはめ、テープでとめる
- ⑤まわりに巻く用の紙に絵を描いてトイレットペーパーの芯に巻き、テープでとめて、できあがり
- ⑥さあ、穴の中をのぞいてみよう！



ビーズの万華鏡

材料は家にあるものや100円ショップ、ネット通販、ホームセンターなどで手に入るものなので、気軽に試してみてくださいね。



◎このコーナーでは県内各地の福祉関連の当事者・職能団体等の方々から日ごろの取り組みをご寄稿いただきます。

本県には2,000名程度の作業療法士がいます。平均年齢は30代前半であり比較的女性の多い職種です。病院、施設で働いている会員から、様々な福祉分野で起業をしている会員もいます。近年のキーワードは、やはり“地域包括ケア”です。

〈連絡先〉 ☎045-663-5997 Mail jimu@kana-ot.jp

URL <http://www.kana-ot.jp>

作業療法の“見える化”を進めています

神奈川県作業療法士会は1981年に88名の会員からスタートしました。今年で35歳という事になりますが、今では会員も2,000名となり県内多くの福祉分野で活躍しています。

また、作業療法士が国家資格となってから今年で50年目を迎えており、日本作業療法士協会では、様々な記念イベントを都道府県作業療法士会と協力しながら実施しているところ です。

当会の取り組みについては、是非ホームページをご覧くださいと思います。これに関しては、一切プロの業者を介しておらず、作業療法士である当会の理事を中心に作業療法士自身がコンテンツを作り上げています。“ブログ”を閲覧してください。“必見！作業療法士のすご技・アイデア集”を閲覧してください。開催されている“研修会”を確認してください。作業療法士の頭の中を少しでも感じていただけたらと思います。

数年前から日本作業療法士協会では取り組みの一つとして“作業療法の見える化”を課題としてきました。

具体的には都道府県の各作業療法士会で実施しているのですが、“生活行為向上マネージメント”という言葉はどこかで聞いた事はあるでしょうか。作業療法士が作業療法的支援を実施する際に行われているプロセスを、他職種の皆さんにも分かりやすく説明するためのツールとして、また作業療法士自身の再教育も含めて、地域支援活動の中で実践しています。横浜市の地域リハビリテーション活動支援事業の中でもこれが生かされています。また昨年度の診療報酬改訂により「生活行為向上リハビリテーション加算」として診療報酬が算定できるようになりました。

このような取り組みの下、近年では地域包括ケアシステムの構築という大きな概念が叫ばれるようになり、当会としては具体的な地域支援活動に作業療法を効果的に生かしていく事が最大の課題となっています。

行政との連携、他職種との連携そして作業療法士の連携など、どれも大きな課題ですが、広く福祉領域の皆さんとも足並みを揃えていきたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。

平成28年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために！

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

1 基本補償(賠償・見舞)

保険期間1年

補償金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金補償限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	死亡 10万円 後遺障害 0.3~10万円 入院時 3万円 通院時 1万円 (1事故で10万円限度)	死亡 10万円 後遺障害 0.3~10万円 入院時 3万円 通院時 1万円 (1事故で10万円限度)
		傷害見舞費用	死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

年額保険料(掛金)	
定員	基本補償(A型)
補基償本 1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと	1,500円
付見舞補償費用(B型)	基本補償(A型) 保険料 + 【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円



スケールメリットを活かした
充実した補償と
割安な保険料
です。

◆28年度新設 使用者賠償責任補償(プラン3-①オプション)
社会福祉法人役員の賠償責任補償(プラン4)

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〈引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第三課 保険会社〉
TEL: 03(3593)6824
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763

貧困に立ち向かう社会福祉施設の実践

第50回関東地区救護施設研究協議会 第56回関東ブロック母子生活支援施設研究協議会開催報告

本県が幹事県となり、7月7日・8日に第50回関東地区救護施設研究協議会、同月14日・15日に第56回関東ブロック母子生活支援施設研究協議会を開催しました。

両研究協議会とも会員施設の皆さんによる実行委員会が企画・運営を行いました。

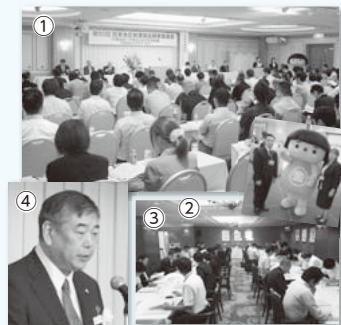
「循環型セーフティネット施設」 として機能するために

救護施設は、生活保護法に基づく福祉施設で、身体障害・知的障害・精神障害のある方、アルコール依存症や路上生活を経験した方など、経済的な問題も含め、生活課題のある方たちが暮らしています。全国に188施設、本県では5カ所で運営されています。

全国救護施設協議会では、平成25年4月に『救護施設が取り組む生活困窮者支援の行動指針』を作成し、支援を必要とする方を幅広く受け入れるセーフティネット施設として、また、地域生活や他種別施設等への移行に向けた支援を

行う循環型施設としての機能強化を図ってきました。

今回の研究協議会では、『行動指針』の検証とさらなる促進、救護施設は何をなすべきか」をテーマに、生活困窮者の緊急保護支援や地域生活移行に向けた生活支援・就労支援など、地域から施設へ、施設から地域への切れ目ない支援の展開を目指した実践報告が行われました。



①～③ 9都県から総勢174人の参加者を迎えた第50回関東地区救護施設研究協議会／④実行委員長の石井謙次さん(救護施設岡野福祉会館・施設長)

「子どもの新しい貧困」に立ち向かう・ソーシャルワークの実践

母子生活支援施設は、児童福祉法に基づく児童福祉施設で母と子と一緒に入所する施設です。全国に261カ所あり、本県では11施設



①②母子生活支援施設研究協議会には132人が集まり、3つの研究部会が開催されました／③実行委員長の宮下慧子さん(カサ・デ・サンタマリア・施設長)

設が運営されています。近年は単純な経済的困窮や住宅困窮ではなく、緊急避難目的の利用や複雑な事情で住まう場を失った方、親子での生活に複雑な課題を抱えた方が中心で、入所理由は世相を敏感に反映しています。

基調報告では子どもと貧困について、子どもを取り巻く環境が経済的窮乏だけでなく、子どもたちが育つ過程に必要とする機会や体験が奪われる「新しい貧困」の実態が浮かび上がりました。希薄な人間関係の中で孤立し、子どもとの時間も十分に取れず、懸命に働く母と子どもたちへの支援の必要性が、子どもの視点から再確認されました。研究部会での優れた実践報告をもとに、シンポジウムでは地域で安定した暮らしに向

けた積極的な施設利用と施設における生活援助支援の重要性、入所前から退所後を見据えた「切れ目のない支援」体制の確立、施設での支援のノウハウを地域に展開するソーシャルワークの実践に向けて示唆に富んだ研究協議会となりました。

地域との連携によりさらなる 支援の方策を目指す

救護施設や母子生活支援施設では施設内の支援だけでなく、地域社会やさまざまな機関等とのつながりを強めていくことで、地域生活への移行に向けたサポートや、これまで施設につながっていなかった人に対しても支援が届くような方策について、研究・協議しています。

経済的に困窮し地域社会とも縁が途切れ、社会的孤立の状態にある人たちが、就学の機会や社会経験が得られず貧困の連鎖に陥ってしまう子どもたちが多く存在している。昨今、生活の場を提供し支えてきた社会福祉施設の取り組みについて、あらためて注目していく必要があるのではないだろうか。

(社会福祉施設・団体担当)

天体観望会のご案内

- ◇日時=9月17日(土)午後6時30分～午後8時
- ◇場所=川崎授産学園天体観測室・ロビー他(川崎市麻生区細山1209)
- ◇内容=①観望「中秋の名月」②解説「中秋・秋分等暦について」③ブラックライトシアター『お月さまにのぼったうさぎ』他④先着200名にお団子プレゼント
※雨天、曇天の場合は解説、シアターなどのみ行う
- ◇交通機関=小田急線新百合ヶ丘駅より小田急バス4番乗場千代ヶ丘行または読売ランド行にて「千代ヶ丘」下車徒歩10分 ※駐車場若干あり
- ◇主催=川崎天文同好会・川崎授産学園
- ◇参加方法=事前申込み不要・参加費無料(但し、小学生以下は大人同伴)
- ◇問合せ先=川崎授産学園
☎044-954-5011 FAX 044-954-6463

ハイキング参加者募集

- 山岳集団ベルククラブでは、身体障害のある人とボランティアがともに楽しむ登山会を開催しています。
- ◇日時=10月2日(日)午前7時30分集合・午後5時解散予定
 - ◇目的地=十国峠山(静岡県熱海市)
 - ◇集合・解散場所=小田原駅西口
 - ◇参加費=障害のある方は無料。ボランティアは6,500円(一般)、5,000円(大学・高校生)、2,500円(中学生・小学生)
※参加費には貸切バス代、有料道路代、参加者保険料、資料作成代などが含まれる
 - ◇募集人員=障害のある方36名(うち、車いすを利用される方16名)、ボランティア118名
 - ◇申込締切=9月10日(土)
 - ◇申込方法=本部あて☎またはFAXにて申込む
 - ◇その他=申込者を対象に事前説明会(9月20日)を開催(本部より申込者宛別途案内有)

- ◇問合せ先・申込先=山岳集団ベルククラブ本部事務所(室井)
☎0465-23-0416 FAX 0465-23-6290

第43回国際福祉機器展 H.C.R.2016開催のご案内

- ◇会期=10月12日(水)～14日(金) 午前10時～午後5時
- ◇会場=東京ビッグサイト・東展示ホール(東京都江東区)
- ◇入場料=無料(一部のプログラムは有料)
- ◇内容=①17カ国・1地域の530社から約20,000点の福祉機器を総合展示②国際シンポジウム③H.C.R.セミナー④H.C.R.特別企画⑤出展社主催プレゼンテーション
- ◇参加方法=事前にwebまたは当日会場にて入場登録が必要
- ◇問合せ先=国際福祉機器展H.C.R.2016事務局(一財)保健福祉広報協会
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2新霞が関ビル
☎03-3580-3052 FAX 03-5512-9798
URL <http://www.hcr.or.jp>

横浜いのちの電話「響きあう語りと音楽のゆうべ」のご案内

- ◇日時=10月28日(金)午後6時30分開演(開場:午後5時45分)
- ◇会場=関内ホール(大ホール)
- ◇出演=有馬稲子(朗読・お話)、澤村祐司(箏)、伊藤真智子(フルート)、三枝慎子(チェロ)、和田さやか(ピアノ)
- ◇チケット=前売券3,000円、当日券3,500円(全席自由)
- ◇問合せ先・申込先=横浜いのちの電話事務局
☎045-333-6163((月)～(金)、午前9時～午後5時)
FAX 045-332-5683 (FAXでの締切10月14日(金))

寄附金品ありがとうございました

- 【子ども福祉基金】荒谷昭子、匿名
- 【ともしび基金】脇隆志、天台宗神奈川教区、松岡万里子、県立保土ヶ谷養護学校(合計352,970円)

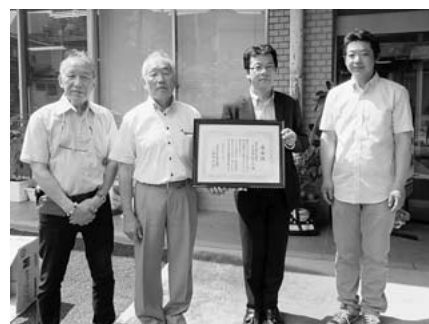
- 【寄附物品】神奈川観賞魚親睦会、(株)東邦プリンテック、山下みゆき(いずれも順不同、敬称略)



天台宗神奈川教区より、ともしび基金にご寄附いただき、榎本昇道宗務所長(左)より目録を受領



妙深寺婦人会より、長きにわたり、ともしび基金へご寄附いただき、柴田英子婦人会会長(中央左)、伊藤孝子会計担当(左)、阿部信仰執事長(右)へ感謝状を贈呈



神奈川観賞魚親睦会より、県内の福祉医療施設、児童福祉施設に金魚飼育セットが寄贈され、長谷川賢太郎代表(左より2人目)に感謝状を贈呈

お詫びと訂正

本紙7月号11面「information」の「本会新役員のご紹介」において、青木英光氏(川崎市社協)の役職を「評議員」としてご紹介いたしましたが、正しい役職は「理事」でした。訂正し、お詫びいたします。

自分らしく働ける「会社」を自分たちの手で創り出す

(特非) 寿クリーンセンター (横浜市中区)

寿クリーンセンター(以下、センター)は、依存症や障害等様々な困難を抱えることにより「働きたいと願いつつ、仕事を得る機会を得難い仲間」を主体として平成20年に事業を開始しました。

ストレスの少ない仕事場

センターの出発点は、仕事をすることが依存症等からの回復に効果的である一方、仕事のストレスによって体調等を悪化させてしまう側面もあることを踏まえ、「ストレスの少ない仕事場」を創ること。この考えのもと、センターでは各々が自分の意思に応じて、自らのできる範囲で役割を果たして働く仕組みです。「自分の職務がはつきり



左から、伊津野さん、市野さん、奈良さん。(囲み) 須田さん。
休憩タイムは作業場でほっと一息



倉庫の片づけ作業。丁寧かつ効率的なチームプレーでまたたく間に片付いていく

(特非) 寿クリーンセンター

☎045-633-2608

URL <http://kotobuki-clean-center.org/>

手際よく・気配り・責任感

センターが請負う主な仕事は、一人暮らし等で片づけが困難な方や施設入所等により住人がいなくなった個人宅の掃除、引っ越し等です。市場の競合も激しい中、「プロとしての責任感」で、ときばきと手際よくチームで仕事を進めていきます。同時に、依頼主の目線に立ち、物音への配慮など細やか

しているのが仕事に入りやすい「人生大変なこともあったけど、今は大型車のドライバー経験を活かしている」と話す市野さん、奈良さんをはじめ、経験も個性も多様な20代から60代の20数名が自分のペースで働いています。

新たな展開へ「ぶれいす」開所

センター長の須田さんは「心身の安定、職場の人間関係等、全部つながって仕事として成り立っている。皆で汗をかき、皆で話し合う。事業開始以来、事故・ケガは一件もない」と話します。働きたいという思いを大事に、各自のできる範囲で働く「1/2福祉支援、1/2自立」という視点は、多様で柔軟な「働く場」を創り出し、実績を重ねています。

センターでは行政の就労相談等から紹介されてくる様々な人の望む働き方にさらに応えていけるよう、新たに就労継続支援B型事業所「ぶれいす」を開所しました。地域と共に生きる「居場所」づくりが始まります。

(企画調整・情報提供担当)



平成28年度

福祉車両助成公募のお知らせ!!

公募による助成を行います。

- 応募資格 社会福祉法に基づく、第1種及び第2種社会福祉事業を行う社会福祉法人・財団法人
- 応募方法 ホームページからプリントアウトし、郵送にてお申し込みください。
- 応募受付期間 平成28年9月5日(月)から平成28年9月26日(月)【当日消印有効】

詳しくは、ホームページをご覧ください。

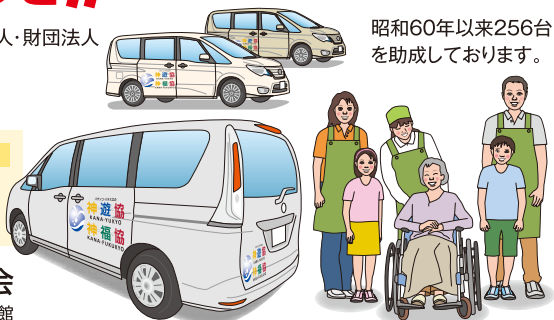
神奈川県遊技場協同組合 <http://www.kykk.com>

神奈川県福祉事業協会 <http://www.kykk.com/fukushi>



神奈川県遊技場協同組合・神奈川県福祉事業協会

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町1-6-10 神奈川県遊技場協同組合会館



昭和60年以來256台を助成しております。

「福祉タイムズ」は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています

【発行日】2016(平成28)年8月15日(毎月1回15日発行)

【編集発行人】新井隆

ご意見・ご感想をお待ちしています!

【発行所】社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

【印刷所】株式会社神奈川機関紙印刷所

バックナンバーはQRから

〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4番地の2

☎045-311-1423

FAX 045-312-6302

Mail kikaku@knsyk.jp

神奈川県福祉